

## 2024 事業年度経営目標の達成状況の評価

2025 年 5 月 23 日

日本中央競馬会 経営委員会

日本中央競馬会経営委員会は、日本中央競馬会法（昭和 29 年法律第 205 号）第 8 条の 3 第 3 項の規定に基づき、日本中央競馬会（以下「J R A」という。）の 2024 事業年度経営目標の達成状況の評価を行った。

本経営委員会が行う評価は、これを業務執行に的確に反映させることを通じて、各業務の改善及び将来にわたる事業運営の適正性と効率性の確保を図り、中央競馬を一層発展させることを目的としている。

J R Aには、今回の評価を踏まえ、業務の改善を図るとともに、より効果的かつ効率的な事業運営がなされるよう求める。

### 【総評】

2024 事業年度は、基本目標である「開催日数 288 日（36 開催）の競馬の着実な実施」及び「お客様総数の拡大-対前年比 100%超」を達成し、発売金についても前年を上回った。

従来にも増して自然災害やシステム障害といった幅広いリスクへの対応が求められ、物価上昇等の影響により個人消費が伸び悩む中でこうした成果を挙げたことは、これまでの様々な取組みの結果として評価する。

J R Aが競馬の施行を通じた社会貢献を果たしていくためには、中央競馬を着実に実施することはもとより、より多くのお客様に競馬に参加していただくことによって、安定的な売上げを確保し、持続的に発展していくことが重要である。

今後とも、全ての役職員が経営の基本方針を常に意識しつつ、夢と感動をお届けできる国際的なスポーツエンターテインメントとしての競馬をより多くのお客様とともに創造してもらいたい。

## 1. 基本目標

### ○ 事業運営の根幹となる開催日数 288 日（36 開催）の競馬の着実な実施

- ① 競馬の公正確保の徹底や防疫面での強固な取組み、各種システムの安定的運用等を通じて、288 日の競馬を遂行する。
- ② 自然災害等により当初計画での実施が困難な場合は、関係各所との調整を速やかに行い、代替競馬・続行競馬を実施する。

2024 事業年度においては、当初計画した開催日程に沿って、開催日数 288 日（36 開催）の競馬を着実に実施した。

これは、お客様の安全確保や競馬の公正確保の徹底、防疫面での強固な取組み、競走馬の事故防止対策の推進、各種システムの安定的運用等を確実に実施したことにより達成することができたものと評価する。なお、新潟競馬及び京都競馬において、突発的な天候の変化の影響により各 1 競走が取りやめとなったが、事前に定めた手順に基づき円滑に対応した。

今後とも、安定的な事業継続を図るうえで極めて重要となる競馬の着実な実施のため、自然災害等にも適切に対応しつつ、競馬事業に係る各種業務の着実な遂行に取り組まれない。また、競馬開催を通じて社会への責任を果たし、持続可能でよりよい社会の実現に貢献されたい。

○ 魅力ある競馬開催によるお客様総数の拡大—対前年比 100%超

- ① 魅力ある競走の提供等により、開催競馬場の入場人員の増加を図る。
- ② 快適な観戦環境の提供や販売ネットワークの拡充等により、パークウインズ及びウインズ等の入場人員の増加を図る。
- ③ 電話・インターネット投票の利便性向上等により、会員の増加を図る。
- ④ お客様総数の拡大により、発売金の増加を図る。

2024 事業年度において、競馬開催を行う実日数が前年より 1 日減少したが、お客様総数及び発売金は拡大した。

お客様総数は対前年比 102.2%となり、過去最高を記録した。

これは、開催競馬場の入場人員が引き続き増加し、ウインズ等の入場人員も堅調に推移した一方で、いわゆる「巣ごもり需要」の減退等により減少に転じていた電話・インターネット投票の参加者が下げ止まったことによるものと考えている。

また、発売金は対前年比 101.7%と 13 年連続の増加となった。

これは、夏季競馬期間の発売金が前年を大きく上回るなど、一般競走を含むより多くのレースへお客様にご参加いただいたことによるものと考えている。一方、10 月、11 月の G I シーズンにおいて発売金が前年を大きく下回るなど、幅広い層のお客様にご参加いただける G I 競走が全体的に低調であったことから、競馬の魅力をより多くの方に訴求し、お客様の裾野を広げていく必要がある。

こうしたことを踏まえ、今後とも、中央競馬の持続的発展を目指し、お客様の獲得と定着を図るための様々な施策を実施されたい。

## 2. 個別目標

### (1) 魅力ある競走の提供

お客様に長期にわたって中央競馬を楽しんでいただくため、魅力ある競走を提供すべく、以下の項目に取り組む。

- ① G I 競走を頂点としたわかりやすい競走体系を構築する。
- ② 質の高い出走馬による内容・頭数の充実した競走を提供する。(平地重賞競走について、1 競走あたりの平均出走頭数が 14 頭以上。)
- ③ 中央競馬が世界のチャンピオンホースを決定する重要なステージとして位置付けられるよう取り組む。

2024 事業年度においては、年間の出走延頭数が前年を僅かに下回ったものの、平地重賞競走の 1 競走あたりの平均出走頭数は 14.9 頭と、目標値 (14 頭以上) を上回った。

また、外国馬は延べ 11 頭が出走し、ジャパンカップや安田記念のみならず、マイルチャンピオンシップや阪神ジュベナイルフィリーズにも有力馬が出走するなど、これまでの外国馬の参加促進策が功を奏し、お客様に質が高く魅力ある競走を提供できたものと評価する。

今後とも、より一層魅力ある競走をお客様に提供できるよう、競馬番組の改善や国内外の一流馬の中央競馬の競走への参加促進に努められたい。

## (2) 競走馬の資質・能力の向上等への取組み

お客様に質の高い競走を提供するため、競走馬の資質・能力の向上等に取り組む。

- ① 競走馬の生産育成や保健衛生、事故防止等に取り組む。
- ② 近年の夏季における気温上昇を踏まえ、暑熱対策を実施する。
- ③ トレーニング・センター等の競走関連施設の充実を図る。
- ④ 厩舎運営の活性化、厩舎関係者の養成等に取り組む。

2024 事業年度においては、競走馬の資質及び能力の更なる向上を図るため、競走馬の生産育成や暑熱対策等の各種施策に取り組んだ。

競走馬の生産育成については、日高・宮崎の育成牧場において競走馬の生産・育成に関する研究を行い、JRAブリーズアップセールでは、上場全馬の売却を13年連続で達成した。

また、諸団体が実施する軽種馬生産関連事業への助成等の協力を行うなど、生産育成基盤の強化に貢献できたものと評価する。

暑熱対策については、第2回新潟競馬においてWBGT値（暑さ指数）が特に高い時間帯での競馬を休止し、その影響が比較的小さい時間帯に競馬を実施するとともに、下見所周回時間の更なる短縮等を行った。こうした取組みは、暑熱対策として効果が認められ、また、変則な開催時間に対する適切な対応により、円滑に競馬を施行できたものと評価する。

競走馬の資質・能力の向上は、より競走の魅力を高め、お客様の獲得・定着にもつながることから、今後とも引き続き各種施策に取り組まれない。

### (3) 競馬の公正確保等の徹底

競馬の公正を確保し、又は競馬の円滑な実施を確保するため、万全の態勢を整える。

- ① 馬主・競走馬等の登録、調教師・騎手の免許及びその取消しについて、競馬関係法令に基づき、厳正に実施する。また、競馬の公正を確保していく上で必要な制裁や処分を厳正に実施するとともに、競馬の円滑な実施を確保するために必要な措置を行う。
- ② 競馬に対する信頼の確保に向けて、不正事案を未然に防止するため、常に保安体制の整備や注意喚起等を実施する。また、禁止薬物等の飼料への混入防止の徹底に努める。

2024 事業年度においては、登録・免許業務の厳正な実施、不正事案の未然防止の徹底、違法行為の防止等、競馬の公正確保に向けて引き続き取組んだ。

こうした中、一部の騎手による通信機器（スマートフォン）の不適切な使用などの事案が相次いで発生したことは、競馬の公正確保に対する社会やお客様からの信頼を損ないかねないものとして重く受け止め、厳正な制裁や処分を実施した。再発防止に向けては、実効性のある対策を迅速かつ着実に実施するとともに、競馬学校におけるカリキュラムの見直し等にも取り組まれたい。

公正確保は、競馬に対する社会的信用を維持するうえで極めて重要なものであることから、これまで以上に公正確保に万全の態勢で取り組むとともに、職員を含め関係者の教育を徹底し、安全かつ円滑な競馬の実施に努められたい。

#### (4) 競馬への参加促進及び販売促進

競馬のイメージ向上と話題喚起を図ることで幅広い層のお客様の参加を促すとともに、勝馬投票券をより購入しやすい環境の整備に取り組む。

- ① G I 競走をはじめとした様々な機会に各種メディアを通じたプロモーションを実施し、競馬の魅力を訴求する。
- ② 競馬中継の安定的な提供やパブリシティ活動の充実により、競馬に対する興味を喚起する。
- ③ UMACA投票やスマッピー投票の更なる普及を図るとともに、引き続き電話・インターネット投票会員への加入促進に取り組むなど、勝馬投票の利便性の向上を図る。
- ④ 払戻金施策をはじめ、各種販売促進施策を実施する。
- ⑤ 競馬場・ウインズ等における滞在環境の改善や接客体制の充実を図り、ホスピタリティの向上に努める。

2024 事業年度においては、J R A が創立 70 周年を迎えたことから、日頃より中央競馬をご愛顧いただいているお客様に感謝の意を表すために実施した記念事業を軸として様々な参加促進・販売促進施策を展開した。

年間プロモーションについては、引き続き「HERO IS COMING.」をキャッチフレーズに、競馬ファンを中心とした幅広い層をターゲットに展開した。また、「70 年間にわたる中央競馬の歴史」、「馬と人との関わり」、「お客様への感謝」を表現した新たなブランド広告「未来へ、走り続ける。」を放映した。

さらに、70 周年記念事業の一環として、競馬場では「70th サンクスデー」を設け入場料を無料としたうえで各種イベントを集中的に実施したほか、G I レース当日を中心として UMACA ポイントのボーナスキャンペーンや電話・インターネット投票の会員向けキャンペーン等を実施し、多くのお客様にご来場、ご参加いただいた。

販売促進施策については、すべての投票法の払戻率を 80% に設定したうえで、払戻金に売得金の 5% 相当額の上乗せを行う「J R A ウルトラプレミアム」を G I 競走直前の全 24 レース等を対象として実施し、対象競走は前年との比較で大

きく発売金を伸ばした。

競馬場における滞在環境の改善については、W i - F i 設備の増強や指定席エリアを顔認証により通行できるシステムの導入等を行った。

これらの参加促進及び販売促進施策の展開が、お客様総数及び発売金の増加の下支えとなったものと評価する。

今後とも、お客様の獲得と定着を図るため、競馬場やウインズ等における現金投票と電話・インターネット投票の双方において、多様なお客様のニーズや時代の変化に即した様々な参加促進及び販売促進施策を効果的に実施されたい。

#### (5) 馬事の振興及び馬の福祉の充実

我が国の馬文化を支え、競馬を健全に発展させるため、馬事の振興や馬の福祉の充実に努める。

- ① 乗馬人口の拡大を図る。
- ② 馬術の振興及び技術の向上を図る。
- ③ 馬事文化の発展に寄与し、競馬への理解を促進する。
- ④ 引退競走馬のセカンドキャリア促進を図るとともに、その養老等に関する取組みを推進する。

2024 事業年度においては、引き続き、各事業所におけるスポーツ少年団や学生を対象とした乗馬指導の実施や、各種馬術大会の開催の支援、馬術の振興に関連する諸団体が行う事業に対しての助成等を通じ、乗馬人口の拡大及び馬術の振興に努めた。

これまでのこうした取組みが、パリ 2024 オリンピック総合馬術団体における日本代表（初老ジャパン）の銅メダル獲得につながったものと評価する。

また、引き続き引退競走馬と内国産乗用馬を対象とした馬術大会の開催や、引退競走馬の調教（リトレーニング）技術の研究・検証、障がい者乗馬・ホースセラピーを実施する団体の活動や引退競走馬の養老等に取り組む団体への支援などを行った。さらに、引退競走馬の一時受け入れ施設の運営など、馬の多様な利活用に取り組む専門団体「(一財) Thoroughbred Aftercare and Welfare」に対し、基本財産へ拠出するなど設立を支援した。こうした取組みにより、引退競走馬の利活用促進及び福祉の充実に寄与することができたものと評価する。

今後とも、我が国の馬文化を支え、競馬を健全に発展させるため、様々な取組みを通じて馬事の振興と馬の福祉の充実に努められたい。

## (6) 持続的な発展に向けた取組み

中央競馬を持続的に発展させるとともに、持続可能でよりよい社会の実現に貢献するため、社会貢献活動や環境問題等に積極的に取り組み、これらを広く社会に伝えることで、社会に愛され信頼される中央競馬を目指す。

- ① 地域社会との連携・協調や畜産振興への支援等を通じて広く社会に貢献する。
- ② 事業活動に伴う環境負荷を極力抑制しながら環境との調和を図る。
- ③ 法令や社会規範を遵守し、組織運営の透明性・信頼性を確保する。
- ④ 効率的・安定的な事業運営を行うとともに、事業基盤の更なる強化を図る。
- ⑤ 将来にわたる競馬産業の人材確保に努めるとともに、馬を活用した次世代育成に取り組む。

2024 事業年度においては、引き続き社会貢献活動に取り組むとともに、環境負荷の抑制や組織運営の強化、ギャンブル等依存症への対応等、中央競馬の持続的な発展に向け様々な取組みを実施した。

社会貢献活動については、1月に発生した能登半島地震の被災地（石川県）への支援や、畜産振興への支援等を実施した。

環境負荷の抑制については、事業活動に伴い発生する排出物の抑制やリサイクルの推進等に努めるとともに、一部の競馬場において「クリーンエネルギー競馬」を実施した。

こうした社会貢献活動や環境対策を広く社会に発信するため、新たなCM「Be With.～競馬のチカラを、社会に。～」を放映し、中央競馬の取組みに対する認知度向上や理解促進につながったものと評価する。

また、事業基盤の強化については、重要課題である競馬産業の人材確保に向けて、若い世代や馬に触れ合った経験の少ない方に対して、競馬に関連する職業を紹介する「UMA JOB」施策を新たに実施するなど、多面的な取組みを推進した。さらに、8月に札幌で開催された第40回アジア競馬会議をホスト国として

円滑に運営するなど、外国競馬統括機関との国際協調及び日本競馬の国際的地位の向上に努めた。

今後とも、中央競馬が社会から信頼される存在であり続けることを目指し、社会貢献や環境との調和に積極的に取り組むとともに、これらの取組みを広く社会に発信していくことを期待する。併せて、一層の効率的な事業運営や競馬産業全体の人材確保及び人材への投資など、中央競馬の持続的な発展のために必要な諸課題に適切に対応した組織運営を行うよう努められたい。